

総義歯臨床を多面的に理解することができる「ベスト・ルート・ガイド」!

総義歯という山の登り方 臨床のベスト・ルートを求めて

編集委員

村岡 秀明 (千葉県市川市開業)

渡辺 宣孝 (神奈川県横浜市開業)

榎本 一彦 (千葉県柏市開業)



A4判・210頁・オールカラー

定価13,650円 (本体13,000円+税5%) ISBN978-4-263-44288-3

- インプラント隆盛の時代にあってもなお無歯顎治療の正攻法といえるのが総義歯臨床。本書はとかく「難しい」とされることの多い総義歯臨床について、経験の浅い歯科医を読者対象に、基礎知識を整理するとともに臨床のポイントをわかりやすく解説した最適のガイドブックです。
- I章では、まず総義歯作りにおける疑問点を編集委員による座談会で抽出、II章では、総義歯臨床の第一線で活躍中の臨床家がプロセスに即した15の共通質問に答える形式で問題を解決、III章では、それらをふまえ、診査・診断からメンテナンスまでを再び編集委員がディスカッション、そしてIV章では、総義歯臨床の各ステップにおけるポイントを、今日的なテーマについてふれながら執筆・解説しています。
- 学術と臨床をつなぐ重要なテーマについては、〈学と臨床〉で、大学の気鋭の研究者による解説を掲載しました。
- さらに、実際の動きが理解できる動画 DVD 付きですので、総義歯臨床をプラクティカルにかつ多角的に学ぶことができます。

予定目次

I 《編集委員座談会》1 総義歯作りでの疑問

II 私の総義歯臨床 15の質問に答えて 15の質問とキー・ワード

1. 患者を安心させる「名言」
 2. 不具合の義歯はどこから手をつけていますか
 3. 困難が予想される顎堤、粘膜などの診査とその対応
 4. 治療用義歯を用いる症例と「一回法」で作製する選択基準
 5. 印象においてはどこまで、どんな精度を追求して、どんな方法とマテリアルで行うか?
 6. 模型は、義歯製作までにどんな目的で、どの時点で作製しているか、その模型の備えるべき要件とは?
 7. 義歯外形についてどのように考えるか
 8. 狂った顎位はどこまで修正可能であるかの判断
 9. 咬合高径の決め方とその基準
 10. 人工歯の選択、人工歯の排列の基準
 11. 完成義歯の装着
 12. 咬合調整のポイント
 13. メンテナンス
 14. 総義歯における金属床義歯の意味
 15. ラボ・サイド(歯科技工士)とのコミュニケーションの方法
- 最後に 総義歯臨床の学び方について

私の推奨する材料、器材

III 《編集委員座談会》2 旧義歯の診断から装着後の問題への対処

IV 私の考える総義歯臨床のポイント

総義歯患者とどう対応していくか—診査・診断からメンテナンスまで—
使用中の義歯診査、経過症例におけるリマウント
私の総義歯印象法
私の咬合採得法—咬合平面の考え方を中心に—

《学と臨床》基本の下顎位と咬合採得時の顎位

《学と臨床》人工歯排列・人工歯に与える咬合様式と咀嚼

「いかに簡単に確実に」究極の義歯作り

《臨床対談》上顎フラビリー・ガムへの対応

医歯薬出版株式会社